



平成 21 年度 喜安記念業績賞紹介



編集にあたって

村上 篤道

喜安記念業績賞選定委員会委員長
三菱電機 (株) 開発本部

情報処理学会は、平成 19 年度から、業界における顕著な業績を顕彰するため『喜安記念業績賞』として選奨することになっています。喜安善市先生は、パラメロン計算機、PCM、回路網理論等の業績で著名な敬輩であります。先生の科学技術への探究心や情熱の強さを彷彿とさせる逸話として、Paul Dirac の量子力学により予言されたマグネティックモノポールの存在を実証しようとした試みについて、学生時代に聴いた記憶にあります。かような先生の名前を冠として戴く業績賞の選定にあたって、相応しい候補の応募がたくさん集まることを心待ちに願い、応募期間を延長させていただきました。

幸いにして、今回は、7 件の応募の中から選考投票・審議の結果、情報技術に関する新しい発明、新しい機器や方式の開発・改良、あるいは事業化プロジェクトの推進において顕著な貢献をされた 3 件を選奨することができました。

NEC 研究開発チームによる「動画像認識高並列プロセッサの研究開発とその実用化」は、20 年の歳月にわたる継続的な研究開発の成果が選奨されました。汎用プロセッサ全盛の時代でも難点だった IMAP シリーズプロセッサへの画像認識アルゴリズムのマッピング手法や並列プログラミング環境等の課題を解決し、IMAPCAR シリーズの製品として結実させています。

NTT ドコモ、富士通、三菱電機、シャープ、ルネサス各社の共同開発プロジェクトは、「3G 携帯電話端末用共通プラットフォームの共同開発」で選奨されました。連携した 5 社の熱意が 3G 携帯電話プラットフォームビジネスに

夜明けをもたらしました。このプロジェクトは 2004 年からスタートし、初代チップセットは 2006 年発売の携帯電話から搭載されました。2007 年に第 2 世代プラットフォーム、2008 年秋に第 3 世代プラットフォームを世に送り出し、累計で 69 機種、3,500 万台以上の携帯電話に搭載されました。第 4 世代プラットフォームもまもなく携帯電話に搭載されて世に出ようとしており、4 世代にわたって携帯電話の高性能化、高機能化に継続寄与しています。

東芝の技術開発チームからは、「テラバイトデータ高速検索を可能とした XML データベースシステムの開発と実用化」が受賞となりました。「構造自動抽出技術」や「問合せ最適化技術」などの独自技術を開発することで、大規模化への目処をつけ、XML データベースシステムの製品化を実現しています。本システムは、新聞社、保険会社、自動車メーカー、テレビ会社、官公庁など各業界に納入され、データ管理、コンテンツ管理の分野で実績を積んでいます。

このたびの選奨において、日本の得意な組込みシステム分野で低消費電力のマルチコア・プロセッサから 2 件と、Web システムの基本技術となる XML データベース検索からの 1 件が、産業界や市場ユーザにも広範囲で活用され、栄誉ある平成 22 年度の喜安善市記念業績賞の受賞の運びとなりました。受賞者の方々と、この研究開発や事業化に共に携われた皆様方に、深い敬意を表すとともに、心から受賞をお祝申し上げます。

(平成 22 年 5 月 29 日)